

第2回 小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

日時	令和3年(2021年)2月22日 18時00分～19時30分		
場所	小諸商業高等学校 大会議室		
出席	懇話会構成員22名(オンライン出席1名を含む)		
欠席	3名	傍聴者	3名
事務局	小諸商業高校	藤澤教頭(事務局長), 原教諭, 中村教諭, 松澤教諭, 植原教諭	
	小諸高校	倉下教頭(副事務局長), 金子教諭, 坂口教諭, 井出教諭, 甲田教諭	
	県教育委員会	駒瀬高校再編推進室長, 上原主幹指導主事, 高野担当係長, 柳沢敬主任指導主事	
当日資料	次第, 席図, 第1回懇話会まとめ, 校地検討会議について, 浦崎太郎氏講演資料		

会議事項

- 第1回懇話会について(報告)
- 校地検討会議について(連絡)
- 講演「これからの高校教育のあり方」について
 <講師> 大正大学地域創生学部 教授 浦崎太郎氏
 ①質疑応答 ②意見交換

質疑応答及び意見交換(○構成員のご発言 ⇒浦崎氏のご回答)

【コンソーシアム】

- 本人、地域、学校が交わるというお話の中に、PTAとして家庭も交わることが大切と感じた。
- 今の小諸の方向性は間違っていないと感じた。地域と高校がどう連携するかに尽きる。

【共学共創】

- 大事なものは、仲間として、地域として共感できる心。生徒のスイッチを入れることが大切だと感じた。
- ⇒共学共創の前提は共感。PTAが一番身近で高校生との関係性をつくれるとても大切な組織と認識。

【マイ・プロジェクト】

- 「自分事にしていく」ことが大事であることを実感した。「自分らしく」というからには「自分」を知っていなければならない。「自分を知る」ためにはどのようなことを心掛けたらよいか。
- ⇒「自分事にする」とは共感すること。「共感」「親近感」「一体感」の先にマイ・テーマが育つ。幼い時から身近な人、地域と関わる機会をつくれるか、居場所をつかってあげられるかがマイ・プロジェクトの成否の分岐点。

【総合的探究の時間】

- “立体的で不可分な課題”とは、具体的にはどのようなイメージをしたらよいか。
- ⇒“課題に恋する”状態。恋をすると「考えるな」といっても無理な話。そういう状態と解釈してほしい。
- 中学校でも「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」に移ってきているが、現場では学習指導要領の内容をクリアしなくてはいけない現実もあり、バランスをとることが難しい現状である。

【掛け算による価値創造】

- 自治体として地域の高校にどのような支援ができるかが課題。「偏差値教育」よりも「社会人としての基礎力の向上」の話に共感。高校生が地元に戻り、社会貢献、地域課題の解決という流れになれば素晴らしい。
- 一番の課題は、新校に向け地元をどう盛り上げるかということ。具体的な成功例を伺いたい。
- ⇒1つめは岐阜県飛騨市。幼小中高、家庭、地域が一体となってコミュニティを育てている最中。飛騨市学園構想。2つめは宮城県気仙沼市。子どもが自分らしくあるために、町として学校としてどう応援していくか。現在、高校生のマイ・プロジェクトを市として支援する機運が高まっている。
- 子どもたちには深い学びを期待。現在の産業界のトップは保守的な昭和平成の教育を受けた人が多い。考え方を変えていくには今後どのように取り組んだらよいか伺いたい。
- ⇒今までは狭い範囲の「その中で生きる」がスタンダード。今後は街に出て多様な人と交流していくことが大事。それを意図的に実行しているのが co-working space。業種を超え、異年齢同士が対話できる場を街中に沢山つくり、面白いことをやっていく。会社の外で行うことで、新しいビジネスが生まれる可能性もある。

次回 第3回小諸新校再編実施計画懇話会の予定

小諸商業高校、小諸高校 各校生徒による「学校紹介及び期待する新校像」のプレゼン及び意見交換